

# List Checker2 使い方

第 1 版

作成者： 第 57 期中央執行委員会

作成日： 2025/10/15

最終更新日： 2025/10/15

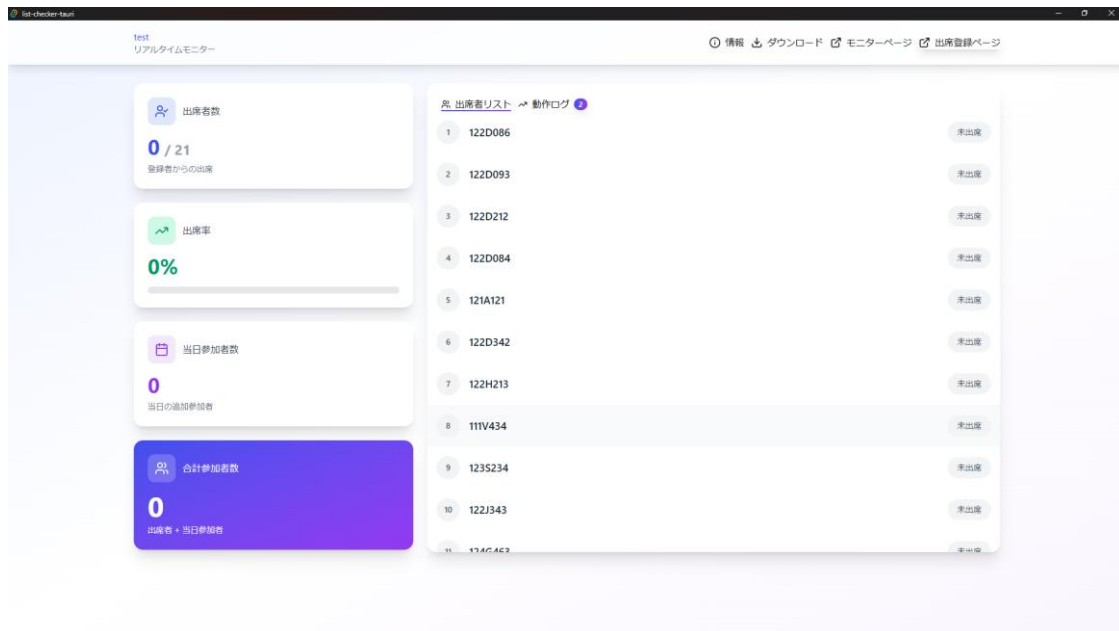
# 目次

1 概要.....	2
1.1 これは何？.....	2
1.2 主な機能.....	2
2 使用方法.....	3
2.1 イベントの作成.....	3
2.2 出席登録方法（PC 1 台）.....	6
2.3 出席登録方法（PC 複数台）.....	7
2.4 動作モード変更方法.....	8
2.5 データの保存.....	10
2.6 データのインポート.....	10
3 その多機能.....	12
3.1 モニター機能.....	12
3.2 定期学生総会モード.....	14
3.3 イベントの再開、複数イベントの同時管理.....	15
4 ソフトについて.....	17
4.1 システム構成.....	17
4.2 ソースコード.....	17

# 1 概要

## 1.1 これは何？

このシステムはイベントの出席管理などを効率的に行うためのアプリケーションです



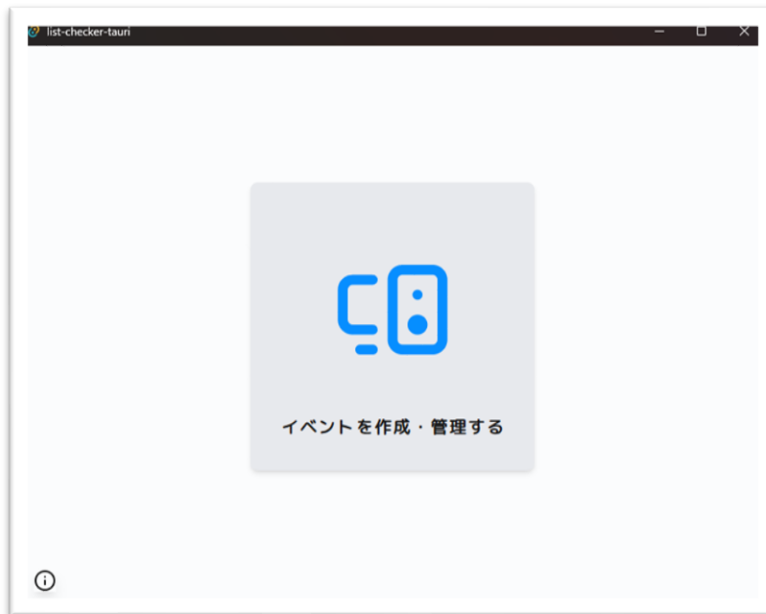
## 1.2 主な機能

- イベントの作成と管理
- リアルタイム出席登録
- 複数デバイスからの同時アクセス対応
- 当日参加者の登録
- 出席状況のリアルタイムモニタリング
- データのエクスポート（Excel、CSV、JSON）
- 過去イベントのインポート機能

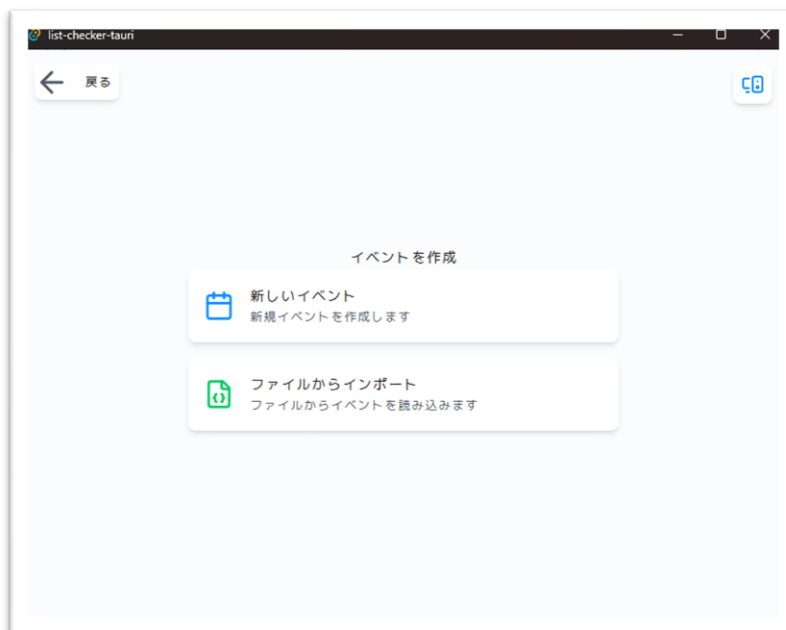
## 2 使用方法

### 2.1 イベントの作成

- ・ソフトを起動後、「イベントを作成・管理する」を押します



- ・「新しいイベント」を押します



- ・動作モードを選択します



#### リストチェックモード1

リスト外の学籍番号は入力できない

#### リストチェックモード2

リスト外の学籍番号が入力された場合、当日参加として別で記録する

#### 受付モード

後のイベント情報入力ページリストを読み込まず、当日参加のみ記録する

#### 定期学生総会モード

委任状集計用の Excel ファイルを読み込めるようにし、表示を定期学生総会用に最適化する

※リストチェックモード1と2はイベント作成後もリアルタイムで設定変更が可能です

- ・イベント情報を入力します

入力例

イベント名 : 2025 トークショー

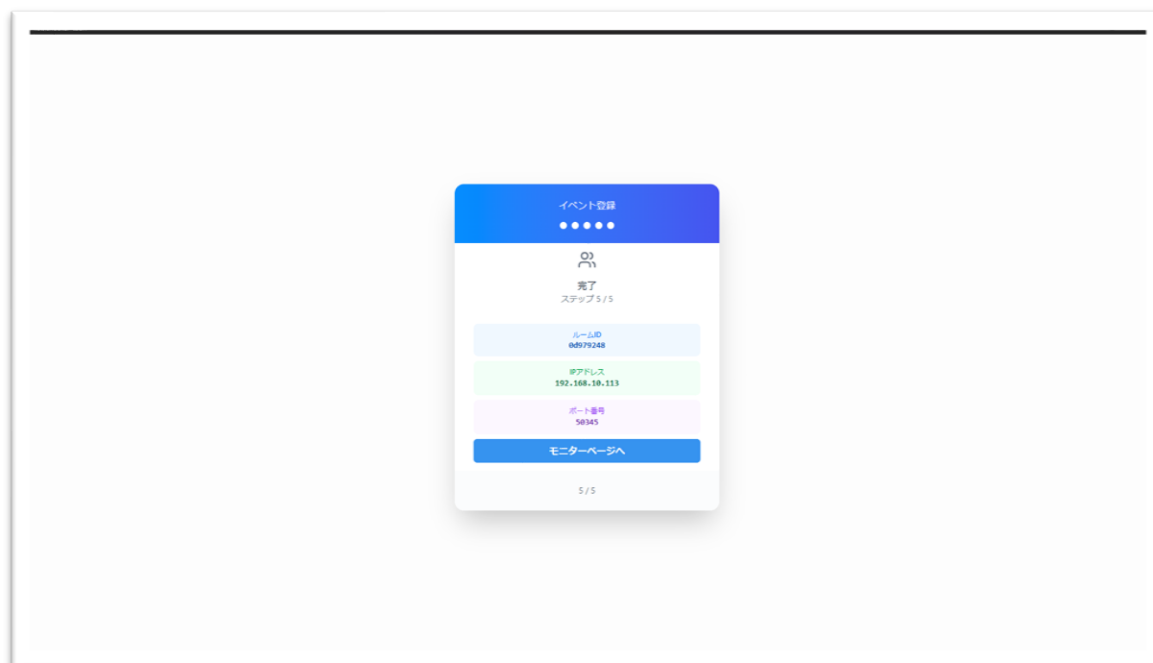
イベント情報 : xx 時開始、xx 時終了など

参加者 : A 列に参加者が記載された Excel か CSV を入力 →

当日参加 : ※リストチェックモード 1 と 2 の違いはこれだけ  
自動登録にチェックをつけるとリスト外の学籍番号が  
入力されても警告なしで当日参加として登録する

	A	B
1	122D086	
2	122D093	
3	122D212	
4	122D084	
5	121A121	
6	122D342	
7	122H213	
8	111V434	
9	123S234	
10	122J343	
11	124G463	
12	275H456	
13	132G467	
14	235T324	
15	242G234	
16	236F252	
17	654F675	
18	654G542	
19	333F444	
20	111D111	
21	566F555	
22		

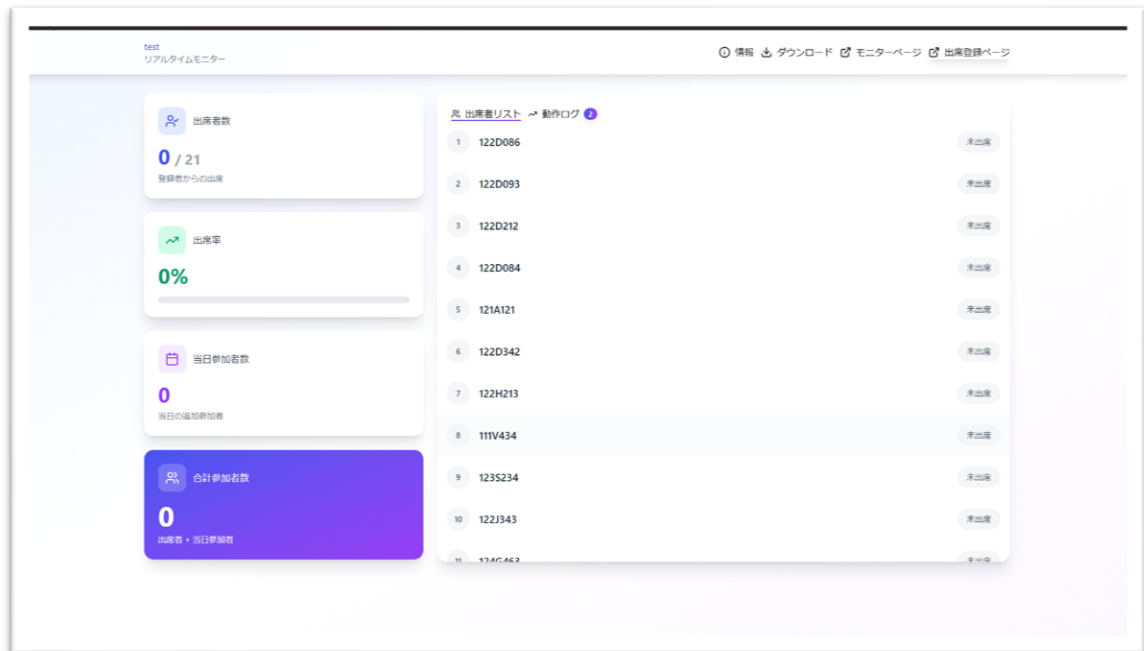
- ・「モニターページへ」を押してイベント登録終了です



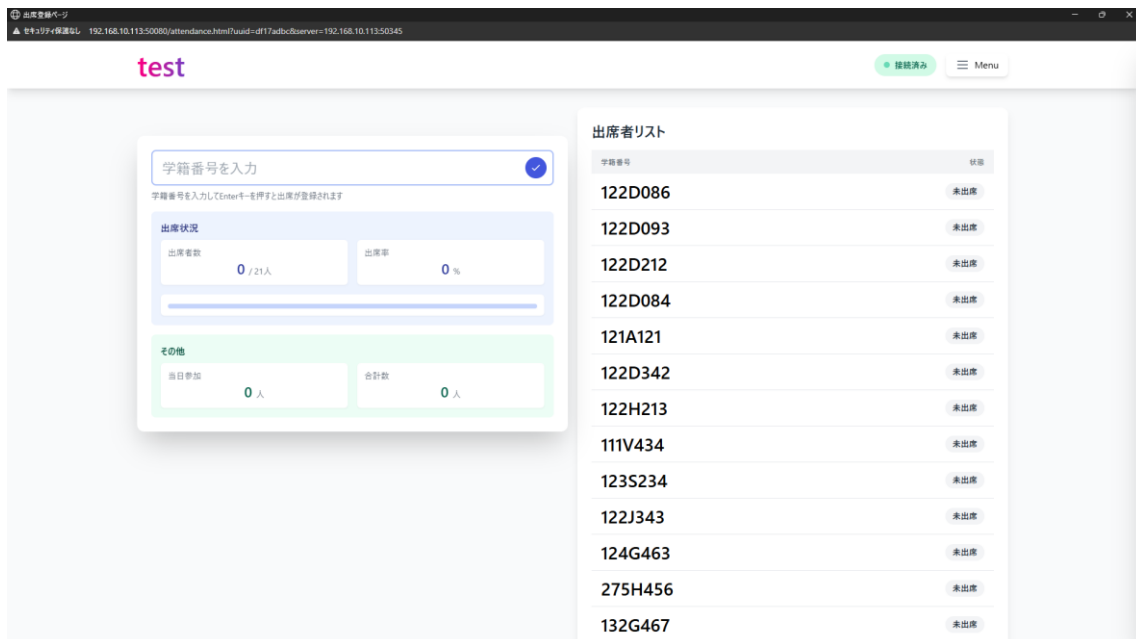
※パブリックネットワークが云々の表示が出た場合、許可を押す

## 2.2 出席登録方法（PC 1 台）

- ・モニターページ右上の「出席登録ページ」を押します



- ・新しいウィンドウで出席登録用ページが開きます



・「学籍番号を入力」のフィールドを対象にしていることを確認し、バーコードリーダーで学籍番号をスキャンします。もし、学生証を忘れた人がいた場合手動で入力し、Enter キーを押してください

学籍番号	出席
122D086	出席
122D093	出席
122D212	出席
122D084	出席
121A121	出席
122D342	出席
122H213	出席
111V434	出席
123S234	出席
122J343	出席
124G463	出席
275H456	出席
132G467	出席

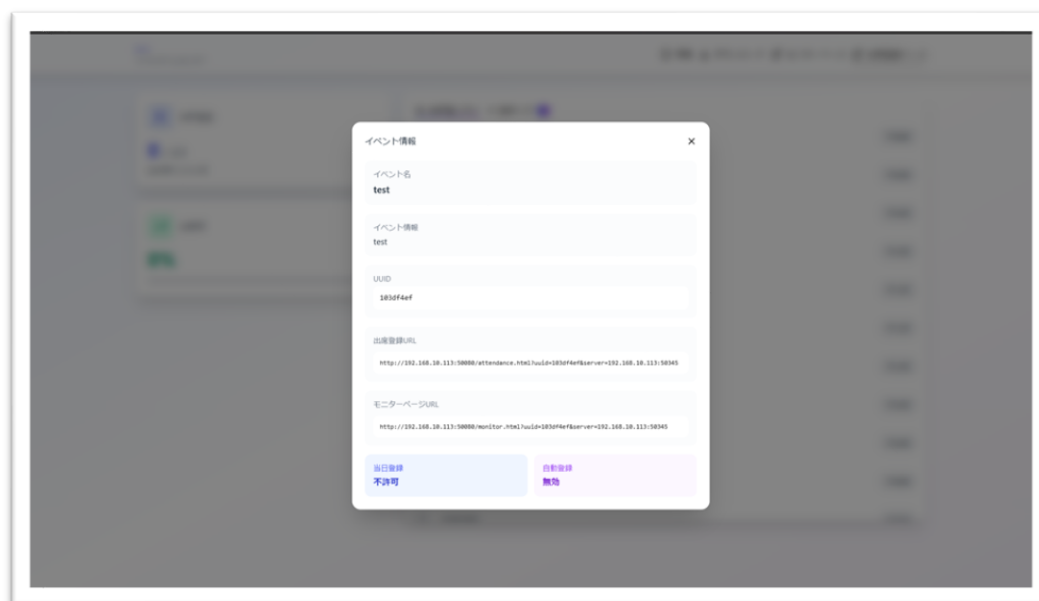
## 2.3 出席登録方法（PC 複数台）

使用するパソコンをすべて同じ Wi-Fi に接続します。（大学の Wi-Fi で可）

List checker 2 のインストールされている PC をホスト、それ以外をクライアントとします

・ホストでイベントを作成後、モニターページの「情報」をクリックします

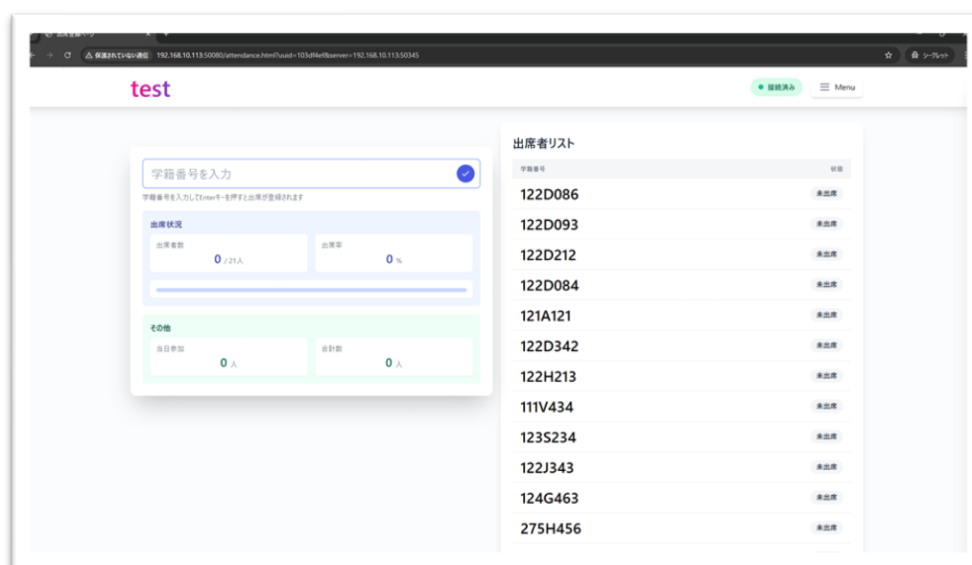




- ・出席登録 URL をクライアントのブラウザで入力します

例：

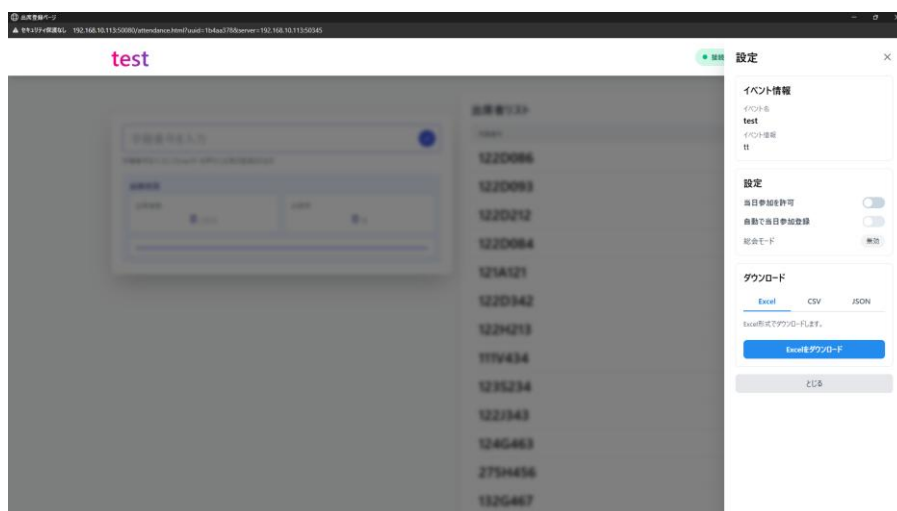
<http://192.168.10.113:50080/attendance.html?uid=103df4ef&server=192.168.10.113:50345>



## 2.4 動作モード変更方法

※リストチェックモード 1、2 のみ変更可能です

- ・出席登録ページの右上の「メニュー」をクリックします



- ・ 設定内にあるトグルスイッチを切り替えることで動作を切り替えることができます
- ・ この設定はすべてのホストとクライアントとでリアルタイムで同期しています

## 2.5 データの保存

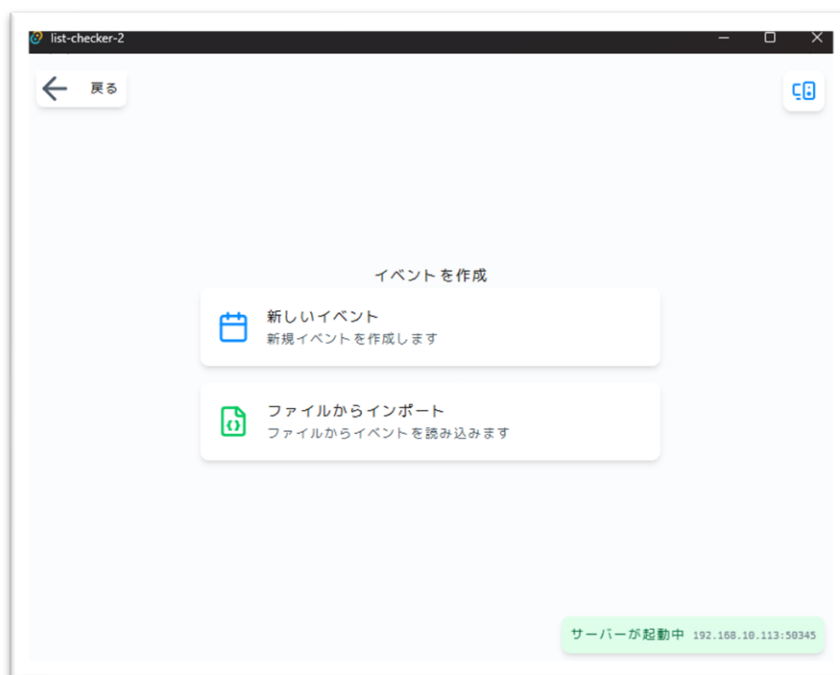
- ・モニターページ、出席登録ページの両方でデータのダウンロードが可能です



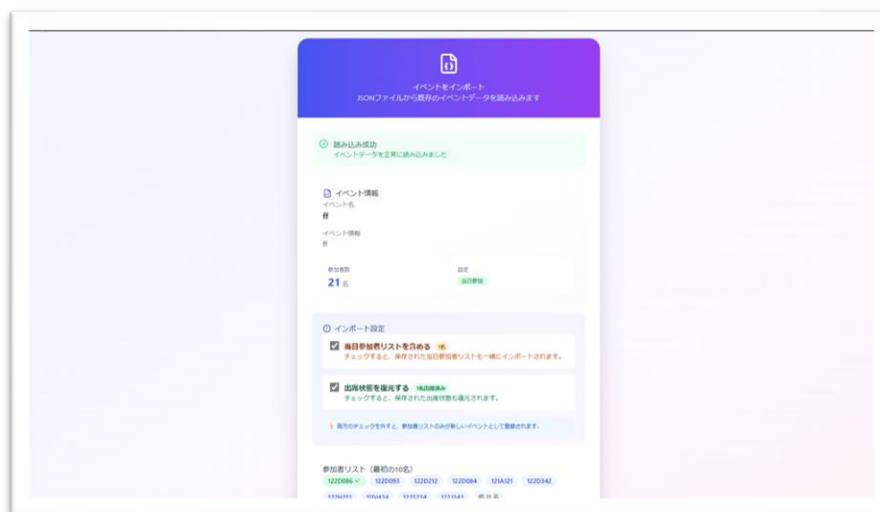
- Excel : 記録用は基本これ
- CSV : Excel 互換ソフトで開く場合はこれ
- Json : 後述のインポート機能を使用する場合はこれ

## 2.6 データのインポート

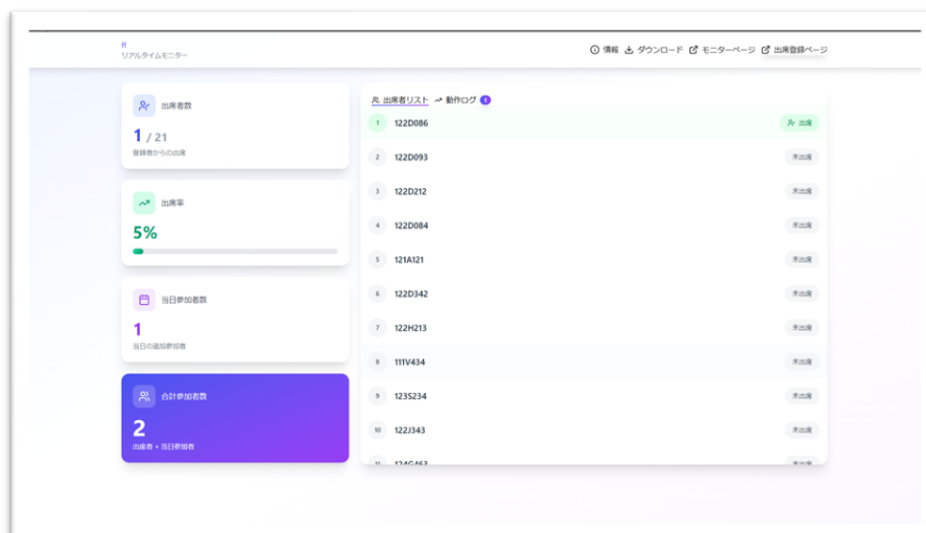
- ・Json ファイルをダウンロードした時点のイベントをそのまま再開することができます
- ・ソフトを起動後、「ファイルからインポート」を選択します



- ・ダウンロードしたJson ファイルを選択します



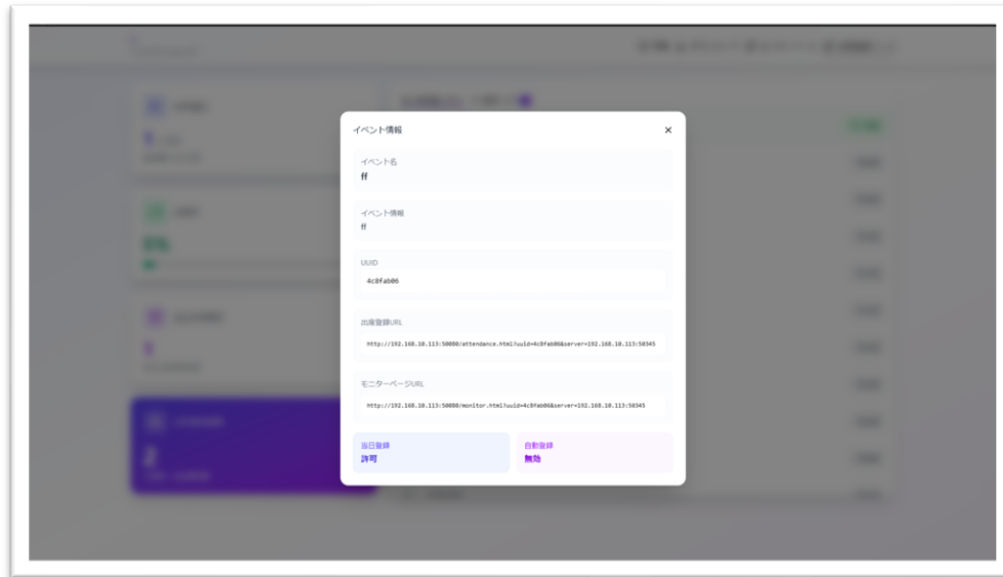
- ・下の「イベント登録」をクリックするとモニターページが開かれます



## 3 その多機能

### 3.1 モニター機能

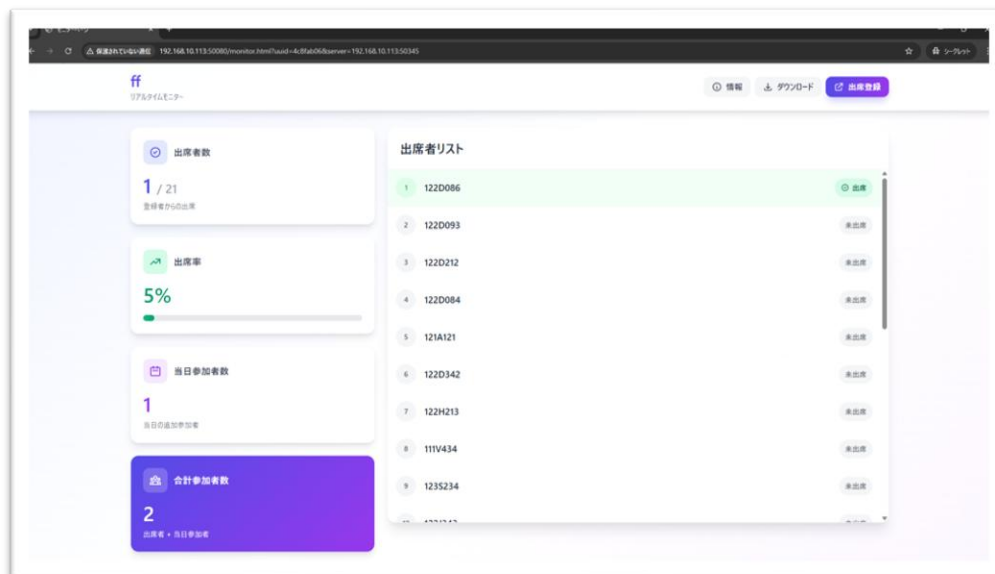
- ・ホストと同じ Wi-Fi に接続している機器でモニターページを開くことができます
- ・ホストのモニターページで「情報」をクリックします



- ・モニターページ URL をクライアントのブラウザで入力します

例：

<http://192.168.10.113:50080/monitor.html?uid=103df4ef&server=192.168.10.113:50345>

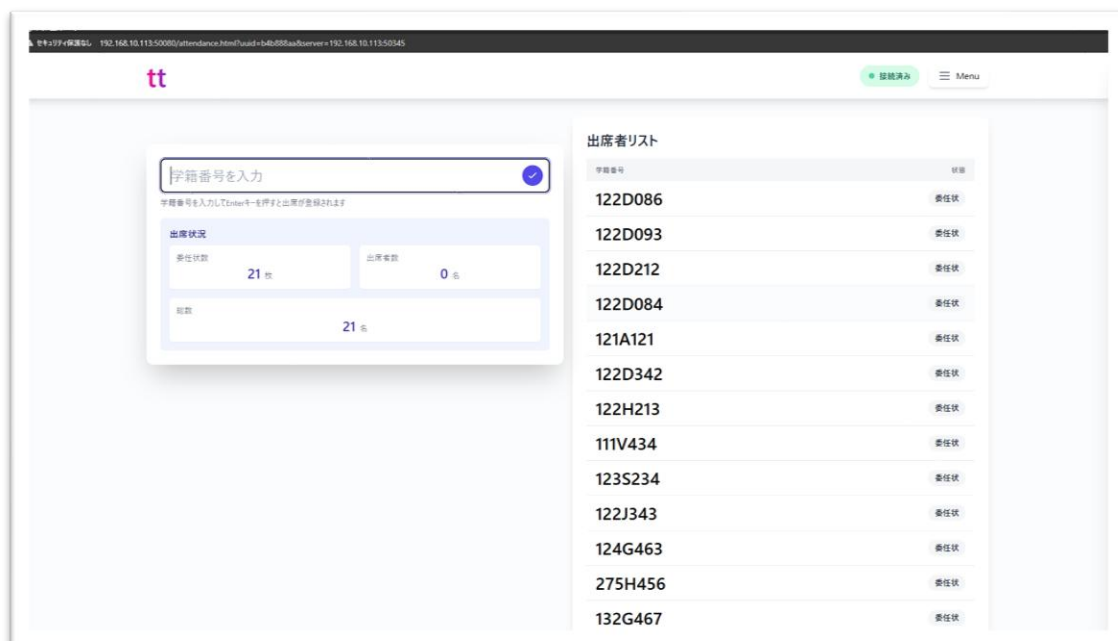
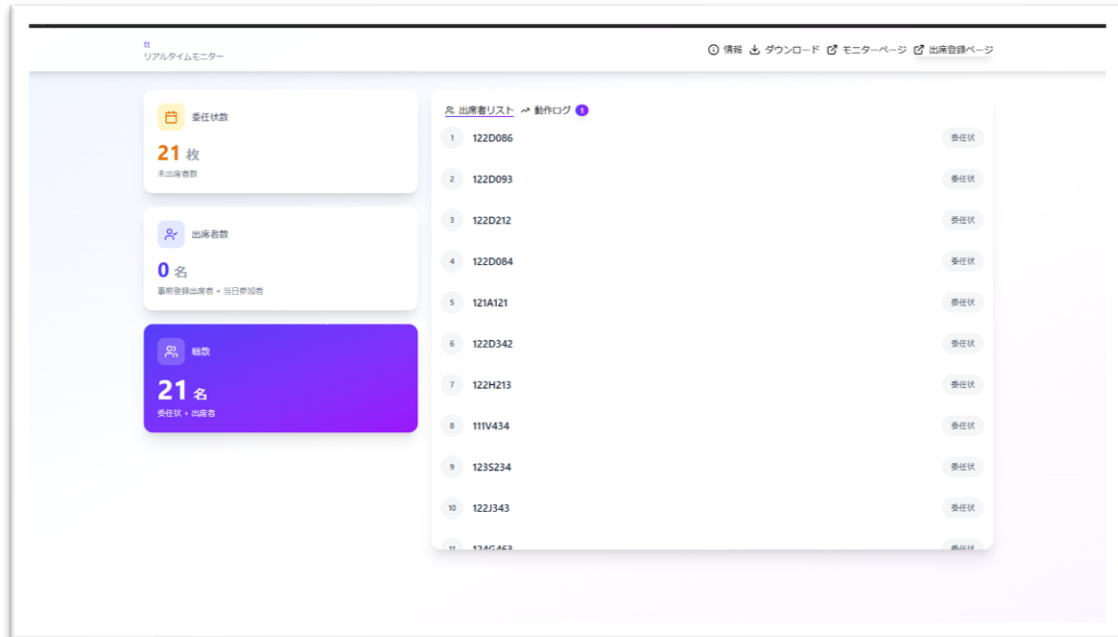


- ・スマホでの表示も可能です



## 3.2 定期学生総会モード

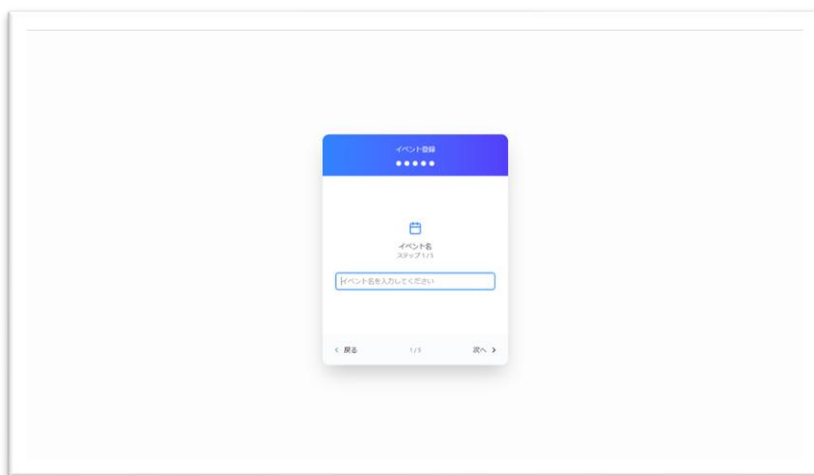
・モード選択で「定期学生総会モード」を選択するとモニターページや出席登録ページでの表示が変更されます



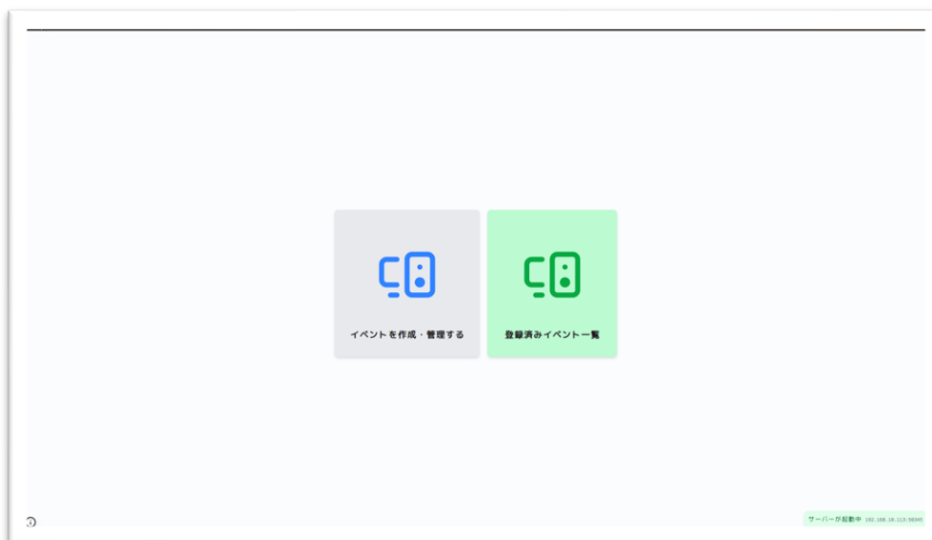
- ・委任状を出していない学籍番号が登録された場合、総数に+1 する
- ・委任状を出している学籍番号が登録された場合、委任状数を-1 し 出席者数に+1 する
- ・イベント登録時に Excel を読み込むとき、B 列が存在する場合 B 列の 2 行目から読み込みます(委任状回収用のマクロ付き Excel がそういう仕様のため)
- ・B 列が存在しない場合、通常通り A 列の 1 行目から読み込みます

### 3.3 イベントの再開、複数イベントの同時管理

- ・ホストのモニターページで右クリックを押したときに「戻る」を選択してしまった場合のイベント再開方法です
- ・「戻る」を選択した場合、次の画面に飛ばされます



- ・もう一度右クリックから「戻る」を選択すると、最初の画面に戻ります





- ・「登録済みイベント一覧」を選択します



- ・「モニターページを開く」をクリックすることで元のモニターページに戻れます
- ・この動作をしている間、クライアントでは問題なく出席登録することができます
- ・この動作を応用することで1つのホストで複数のイベントを同時管理することができます

## 4 ソフトについて

### 4.1 システム構成

- フロントエンド : React + TypeScript + Vite
  - スタイリング : Tailwind CSS
  - バックエンド : Rust(Tauri)
  - 内部サーバー : Axum (HTTP) + Socketioxide (WebSocket)
- 
- 仕様ポート番号
    - 50080: HTTP (静的ファイル配信)
    - 50345: Socket.IO (リアルタイム通信)

### 4.2 ソースコード

- このソフトは OSS です
- 自由にフォークしてください

<https://github.com/TommyZ-7/list-checker-tauri>